



保健だより げんきっこ

★今月のテーマは「夏の病気に気をつけよう」です。

夏に子どもがよくかかる夏風邪と呼ばれるものには「ヘルパルギーナ」「手足口病」「咽頭結膜熱」「流行性角結膜炎」の主に4つあります！日常生活で気をつけていれば予防も可能なので子どもを夏風邪から守るために特徴や対処法を学びましょう。

「ヘルパルギーナ」 	初夏頃から幼児が突然の発熱とともに口の中を痛がる時はヘルパルギーナが疑われます。上あごの奥の周辺が赤くなった1～数mmの小さな水泡が見られるのが特徴です。唾液や鼻水が付着したオモチャ等を触った手や、便に触れた手を介して口から病原菌ウイルスが侵入する接触感染とくしゃみ等で飛び散った病原体ウイルスを吸い込む飛沫感染によって伝染します。
「手足口病」 	38～39℃の発熱に伴い手のひらや足、口の粘膜などを中心に5～7mmの小さな水泡（水ぶくれ）ができる病気です。2～3歳児の子どもに多い病気です。唾液や便にウイルスが含まれており、口から入ることで感染します。感染力は比較的強くウイルスの付着した食べ物などを介して移る事もあります。
「咽頭結膜熱」 	アデノウイルスが原因の感染症。プールを介して流行することもある為、「プール熱」とも呼ばれますが、多くは通常の風邪と同様に飛沫感染、接触感染によって人に移ります。典型的な症状は発熱と咽頭通目やになどです。
「流行性角結膜炎」 	俗にいう「はやり目」と呼ばれる流行性角結膜炎はアデノウイルスに感染することによって引き起こされる結膜炎の一種です。症状は目の痛みかゆみ、結膜の浮腫や充血、眼瞼のむくみが強くそれに伴って涙や、目やにが出てきます。目に違和感がでたり、耳の前のリンパ腺が腫れたりすることもあります。

4つの夏の風邪以外にも子どもの感染症はRSウイルスや細菌は溶連菌感染症にかかる子どもたちが増えてきています！正しく理解し、怖い感染症から子ども達を守っていきましょう！！



アタマジラミについて

夏にはウイルスによってかかる感染症だけでなく、子ども達の頭部に寄生するアタマジラミがいます。アタマジラミによって病気が移されることはありませんが、寄生されると頭皮から吸血するのでかゆみが生じます。また後頭部や耳の後ろなどに毛髪の根元をよく見ると多くの場合はアタマジラミの卵が見られます。

成虫の体調は2～3mm程度で全体が灰白色で吸血後は黒っぽく見えます。夏のプール遊びの時期に流行することが多いですが、秋から冬季にも流行することが多いので気をつけましょう！

